

2023/3/13 (月)

朝の礼拝

聖書 詩編 8章 4-5節 (旧約聖書840頁)

あなたの天を、あなたの指の業を

わたしは仰ぎます。

月も、星も、あなたが配置なさったもの。

そのあなたが御心に留めてくださるとは

人間は何ものなのでしょう。

人の子は何ものなのでしょう

あなたが顧みてくださるとは。

夜空に輝く光

聖書には山羊や羊のために水や草を求めて旅をする遊牧民が登場します。彼らは野宿をして夜空に輝く星を仰ぎ、旅の疲れを癒やしました。また小麦、大麦、ぶどうなどを作る農夫も登場します。彼らもまた空を仰いで畑に出かけ、実りを祈っていました。

人はギリシア語でアンスローポスと言います。「上を見る者」という意味です。古代の人は神様が天に大きな海を造り、時に恵みの雨を、時に命を奪う大雨を降らすと信じていました。そこで天を仰ぐ者として、人はアンスローポスと呼ばれたのです。

この詩人は一日を終え、星空の下で自分の存在の小さいことを嘆いています。しかし同時に「あなたが御心に留めてくださるとは」「顧みてくださるとは」と歌います。神様は私を見ている、私の声を聴いている、そして語りかけて下さっていると信頼しています。

私たちは言葉や文字、数字で人を評価します。でもそれは一時のことなのにせつかく芽吹いた芽を摘んでしまうこともあります。しかしこの詩人は夜空に輝く光を仰ぎ、自分の非力を感じながらも無限の可能性が広がる世界が、自由があると信じています。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、春休みまであと一週間、今年度も終わりに近づいてきました。どうか卒業する中学3年生、進級する各学年の一年間の学びを祝福してください。どうかわたしたちの過ちを赦し、足りないところを補って、すべてをあなたに献げ、変わらないあなたのみ恵みと導きのもと学びを続けさせてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン